

祝辞

三月に入り、空気が入れ替わったような気がしませんか。梅のつぼみが膨らみ、庭の福寿草も黄色い花で、春の訪れを知らせてくれます。

この三年間、私たちを苦しめたコロナ感染症も、ようやく終息の 때가訪れたようです。中途半端でなく、やっと外に出ることができ、人との交流も始まります。春が来た喜びを伝えたくになります。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。皆さんの高校生活は、まさしくコロナ禍の三年間でした。我慢することが多く、さぞかし大変であったと思います。

コロナに負けるなど知恵を絞り、できうる限りのチャレンジを続け、みんなで今日の日を迎えられたことに、心からのエールを送りたいと思います。

同時に、このような非常に、皆さんを励まし、温かく見守り、指導してこられた、志津校長先生はじめ、諸先生方のご努力に、深く敬意を表し、感謝の気持ちをお伝え申し上げます。

また、惜しみなく愛情を注ぎ、見守ってこられたご両親・ご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。

経験したことのない、コロナ感染症に対し、怯え警戒に終始した日々でありました。子供たちの毎日の生活には心配の種が尽きなかつたかと思えます。本日、皆様方と共に、後輩たちの凛々しい姿に接し、この感動を味わえますことに感謝し、重ねてお祝いを申し上げる次第でございます。

さて、卒業生の皆さん、コロナ禍ではありませんが、大勢の友人たちと共に青春を謳歌し、学業にクラブ活動に、また、生徒会活動に打ち込んでこられた三年間は、いかがでしたでしょうか。皆さんの頑張りに、心から共感し、皆さんの船出に

ひと言、励ましの言葉を添えたいと思います。

私は、同窓会長として今年の抱負を同窓会報に寄稿しました。

テーマは、あえて、「コロナで得たもの」としました。というのも、この三年間、家族が感染したり、働く会社もコロナの影響で散々な状況でした。毎日心配事ばかり、コロナのせいで何もかもだめだ。一体どうなってしまうんだ。大勢の人が同じ思いで生活していたと思います。

この非常時に、国は様々な公的支援策を施しました。企業には補助金や助成金。国民にも税金の減額や納付期限の延期、何度ものワクチンの無料接種をはじめ、低金利の融資等でピンチを支えてきました。

私は思いました。泣き言ばかりではだめだ。今できることを、ひとつ一つ実行しよう。

考え行動することで、徐々に不安は減っていき
ました。

どうやったら、補助金がもらえ、低利の融資を受けられるのか。アンテナを高く、インターネットで情報を引き出し、同業者や友人たちとの情報交換を積極的に行ないました。

この三年間、いじめられたコロナのお陰で、私のような高齢者でも、携帯電話やコンピューターを使い、遠くにいる相手とリモート会議が設定できたり、現金に頼らず電子マネーが使えるようになりました。五年くらいは、その筋の先取りができたのではないでしょうか。

人生百年時代となりました。コロナで三年間苦しみました。皆さん、これからの人生には、山あり谷ありです。立ち止まって、一つひとつ研究し、協力して乗り越えるのも人生の楽しみ方の一つです。プラス思考が役に立ちます。

コロナ危機の時、特に同窓生の絆は健在でした。自分の周りには多くの同窓生がいました。頼りになりました。

先輩…、後輩…、と呼び合うと気持ちが良いもの
のです。

私たちはコロナを経験して新しい時代に入りました。これからの働き方や考え方は、新世代の皆さんが創り上げていくことになります。

親もとを離れる皆さんが多いと思います。進学しても就職しても、周りを見渡せば、どこかに「美須々」がいます。無理にとは申しませんが、頼りにし、頼りにされ、貴方らしく人生を歩んでください。

結びとなりますが、卒業生の皆さんの今後のご活躍と、ご同席の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。同窓会を代表しての祝辞とさせていただきます。

令和五年 三月 三日

長野県松本美須々ヶ丘高等学校

同窓会長 小林磨史